



戦略的イノベーション創造プログラム

SIP自動走行システム

Automated driving system for everyone a smile



‘自動運転’への期待

交通事故の削減



高齢者等の移動支援、地方の活性化

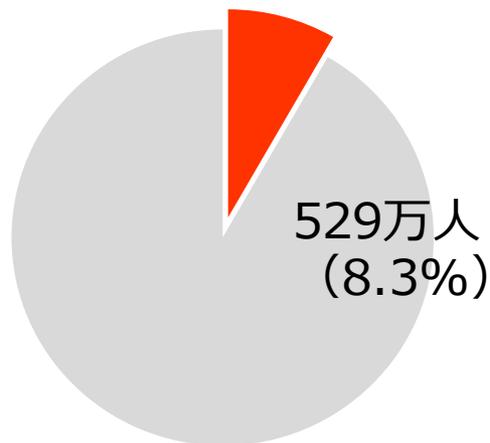
トラック・バスドライバーの不足



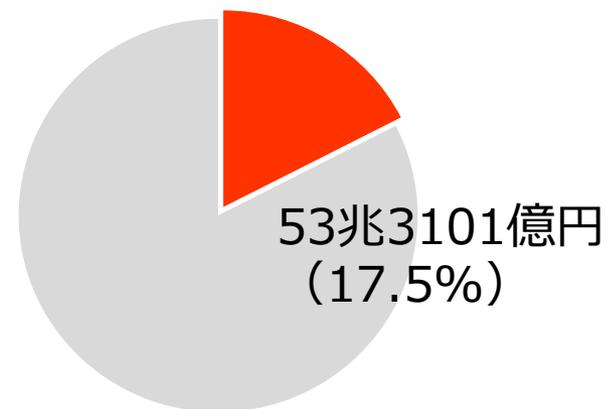
‘自動運転’への期待

自動車産業の競争力強化

就業人口



製造品出荷額



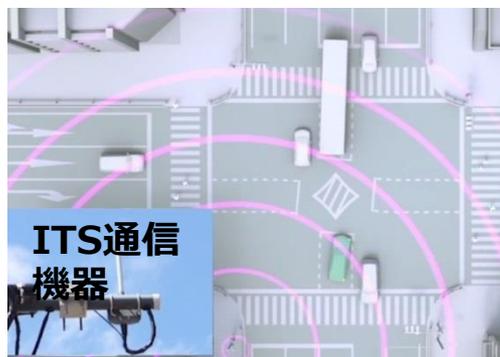
(2014年 日本自動車工業会データより)

関連産業の市場拡大・創出

センサー（カメラ、レーダー等）



通信機器



デジタルインフラ



SIP自動走行システム 目標

- ① 道路交通における事故低減、渋滞削減
- ② 自動走行システムの早期実現と普及
- ③ 高齢者・交通制約者に優しい先進的な公共バスシステムの実現



- ① 2020年までにハイエンドな準自動走行システム (レベル2) の実用化
- ② Next Stepに向けた機能拡張性要件・優先順位の明確化及び実用化の目処づけ

SIPの研究開発領域

クルマ



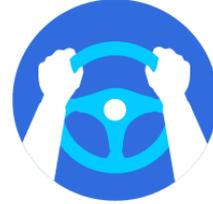
認知

地図、通信、センサー



判断

制御・人工知能



操作

油圧、電動モーター

HMI※



Human
Machine
Interface

人との協調

高度な
・自己位置推定
・周辺環境認知
が重要

ダイナミックマップ

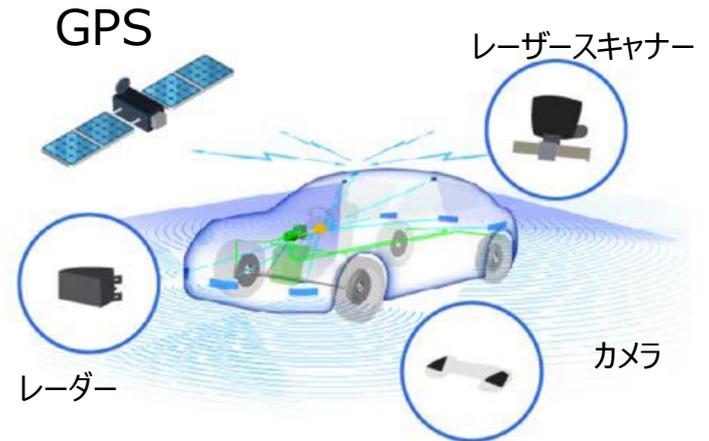


高精細なデジタル地図



通信で得られる情報

自律（車載）センサー



基盤技術

セキュリティ、シミュレーション、データベース etc.

赤字：SIPで取り
組む協調領域

全体スケジュール

H26 (2014) > H27 (2015)

H28 (2016)

H29 (2017)

H30 (2018)

- ◆ 体制構築
- ◆ 個別テーマ研究・開発

推進委員会

システム実用化WG

国際連携WG

次世代都市交通WG

- ◆ 重要5課題への統合

- ① ダイナミックマップ
- ② 情報セキュリティ
- ③ 人とクルマの協調 (HMI)
- ④ 歩行者事故低減
- ⑤ 次世代都市交通

- ◆ 大規模実証実験



研究／技術開発の活性化



より多くの目的で評価・課題抽出



実用化への見極め



国際連携・協調



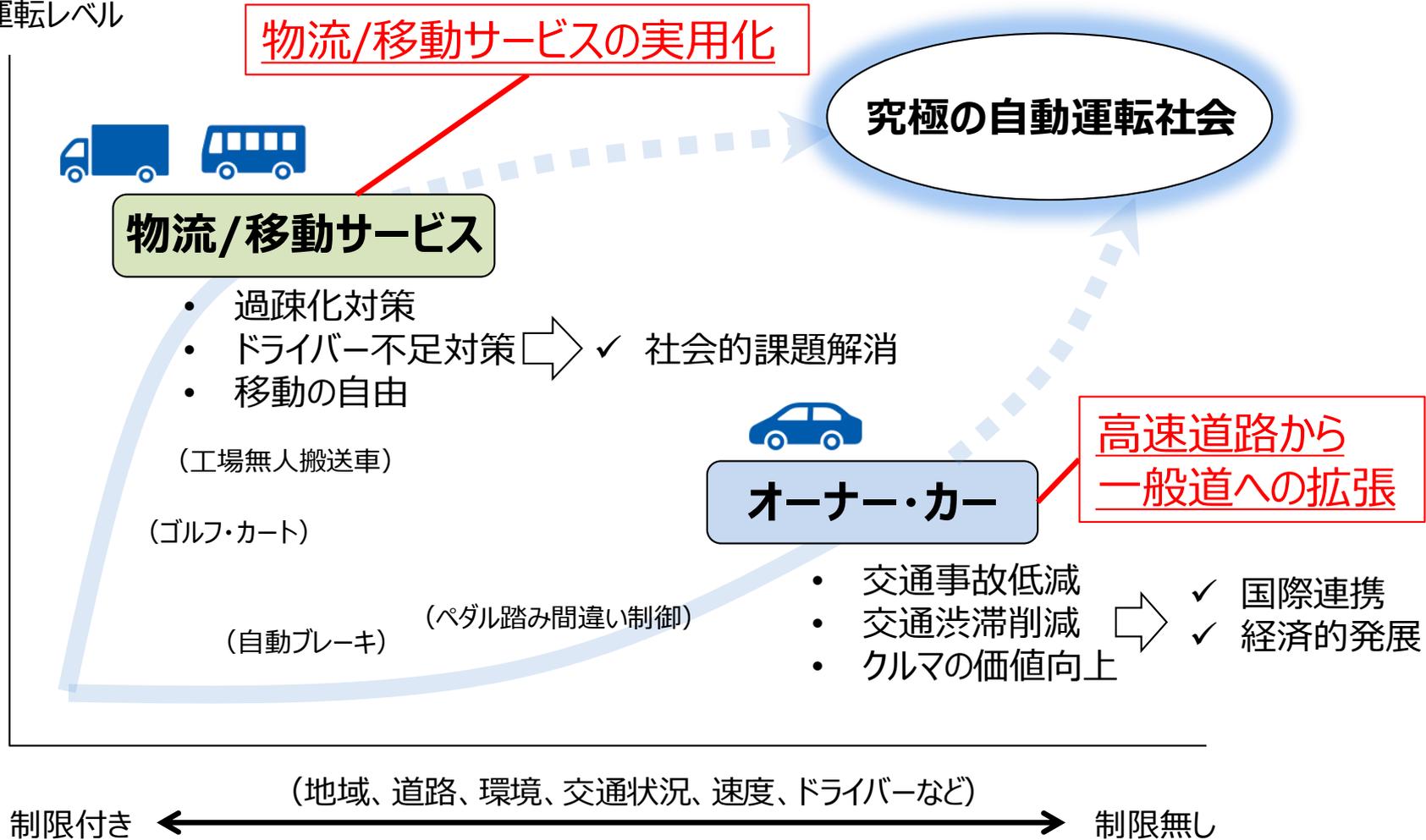
社会的受容性

実用化

✓ 協調領域の重点5課題を中心に大規模実証実験を通し、統合化を図りつつ実用化へ

自動運転のアプローチ・出口戦略

SAE※自動運転レベル



※SAE (Society of Automotive Engineers) : 米国の標準化団体